

神学校献金と東バプ支援の活動

西川口キリスト教会 山中弘次

私たち、西川口キリスト教会では、長年にわたり、神学校週間を中心とした神学校献金への取組みを、教会全体の業として、壮年会だけでなく、女性会、青年会からも支援に加わっていただけて行ってきました。この活動を神学校週間だけでなく定常化させ、かつ強化するものとして、2004年に「伝道者養成支援の会」を設立しました。この会は、壮年会によって運営され、現在、活動12年目に入っております。会費は1口500円/月以上で、毎年4月に維持会員を募集します。例年、20~30名

の維持会員が与えられ、会員は毎月神学校献金をささげています。また、毎年6月の神学校週間には、壮年会メンバーが壮年聖歌隊など種々の礼拝奉仕を担うとともに、証しやアピールを行って伝道者養成の重要性を訴え、神学校献金を勧めています。例年、伝道者養成支援の会で集められた維持会費と神学校週間の席上献金を合わせて、40~50万円が神学校献金としてささげられています。献金先は、50%が神学生奨学金支援（西南学院大学神学生、東京および九州両バプテスト神学校生）、

50%が東京バプテスト神学校運営資金です。私達西川口教会では、これまでに東京バプテスト神学校に数名の講師を派遣し、また多くの教会員が同校で神学生として学び、現在も牧師や伝道者として各地で神様の御用に励んでおられます。これからも伝道者養成支援の重要性を訴え、神学校を支えていきたいと祈っております。



2014年度下期の神学校献金(教会・集会)実績

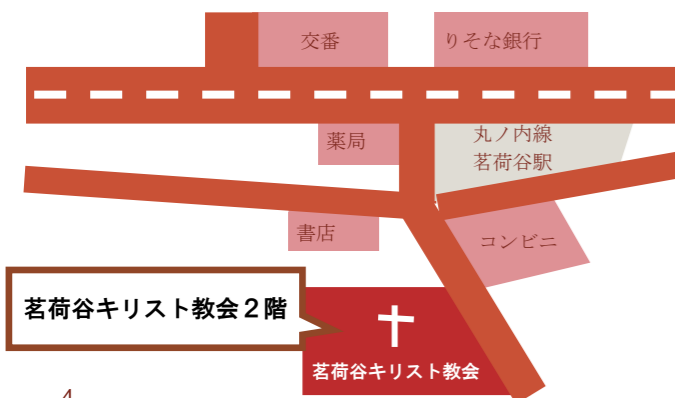
神学校献金(2014年10月~2015年3月末) 50件 合計2,148,266円

【東北】 鮫バプテスト教会【北関東】 宇都宮キリスト教会、西川口キリスト教会(2)、所沢キリスト教会、筑波バプテスト教会、上尾キリスト教会、日本バプテスト前橋教会【東京】 花小金井キリスト教会、千葉バプテスト教会(2)、日本バプテスト船橋教会、花野井バプテスト教会、立川キリスト教会、大井バプテスト教会(2)、赤塚バプテスト教会、新小岩バプテスト教会、府中キリスト教会、花野井バプテスト教会、志村バプテスト教会、茂原バプテスト教会、三鷹バプテスト教会、常盤台バプテスト教会、調布南キリスト教会、市川大野キリスト教会、品川バプテスト教会、キリスト教目白ヶ丘教会【神奈川】 藤沢バプテスト教会、ふじみキリスト教会、横浜戸塚バプテスト教会、洋光台キリスト教会、百合丘キリスト教会(2)、座間・バプテストキリスト伝道所、綾瀬小園キリスト教会【西関東】 山梨バプテスト教会【中部】 金沢キリスト教会【関西】 神戸伊川キリスト教会【中国・四国】 八幡浜バプテスト教会【福岡】 小郡キリスト教会【集会】 後期入学式席上献金、神学校デー席上献金、神学校デー準備会での献金、教役者研修会 席上献金、東京地方バプテスト教会連合、冬期講座席上献金、北関東地方連合壮年会、演奏会献金、卒業礼拝席上献金

2014年度下期の後援会会費・献金(個人)実績

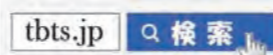
後援会会費・献金者名(2014年10月~2015年3月末) 42名・44件 合計410,951円

(敬称略) 飯野實、金香泰誠、福本峻平(2)、内藤淳一郎、神山武、石垣茂夫、塩山宗満、岡村正二、伊藤真知子、森田敏夫、山本弘夫、辻谷博男、渡部富夫、牧甫、小柳隆司、木原道雄、原田和代、古家克務、和智綾子(2)、鶴野博子、水川英俊、常廣澄子、城野正興、菊地正弘、浜野光子、奥田稔、鮫島泰子、永田邦夫、瀬戸口早苗、片岡順子、小池四三二、松田真智子、谷利仁志、水口仁平、川平朝清、板橋稔、大矢公子、高地輝夫、松村誠一、川勝高宏、秋山信夫・純子、サワダヨウスケ



東京バプテスト神学校

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内
TEL: 03-3947-5141 FAX: 03-3947-5145
E-mail: seminary@tbts.jp



地下鉄丸ノ内線茗荷谷(みょうがだに)駅下車1分
駐車場の用意はありません。車での来校はご遠慮ください

東京バプテスト神学校 後援会

NEWS

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 ☎03-3947-5141 メール seminary@tbts.jp

ここに神学校があります!

後援会副会長 石垣 茂夫(大久保バプテスト教会副牧師)

いつも、東京バプテスト神学校を覚え、お祈りと献金をもってお支え下さる皆様に感謝申し上げます。

わたしは66歳で現業を止めて自由の身になり、一番したいことは何かと祈り求めていました。そのとき湧き上がるように示されたことが「神学校に行きたい!」との思いでした。その思いは、「ここに神学校があります!」との「聖書教育」誌の広告と、他教派の者を受け入れてくださった「東京バプテスト神学校」の寛容によって実現しました。

そうした思いの背景となりました一つのことがあります。20代の初めに「東京神学大学夜間講座」が開校していることを知り、二年間通って終了しました。その講座は、現在も銀座教会を教場とし、70年の歴史を刻んでいます。3か月刻みの授業、二年で8

科目、キリスト教概論、聖書学、ギリシャ語、宗教哲学などを学び、卒論も求められました。しかし、少し物足りなく、心の底にもっと時間をかけて学びたかったとの思いを残して、その時の学びを終えていたのです。

「東京バプテスト神学校」での再びの学生生活は、「これからですか?」、「もう少し早ければよかったのに!」と周囲から言われながら始まりました。しかし、学びを重ねる毎に、不安がなくなり、多くの先生方と出会いがあり、多くの信仰の友と出会わせていただき、「ただ学びたい」との最初の思いは献身へと導かれていきました。

今しみじみとフィリピ2章13節のみ言葉をかみしめています。『あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。』時代の要請を敏感に受けとめ



て神学校を開校し、情熱をもってここまで運営してこられた多くの先達の志を忘れず、「牧師が教師、教会音楽科を併設」という特色ある伝統を生かして、これからも教会にお仕えする人材を輩出する神学校であり続けましょう。そのために、後援会としても、一人でも多くの方々に加わっていただいて、「東京バプテスト神学校」を支えていきたいと願っていますので、何卒、よろしく願い致します。



卒業生の証

牧師として遣わされて

姫路城西キリスト教会牧師 辻 真理子

主のみ名を賛美いたします。いつもお祈りに覚え、お支えて下さり心から感謝いたします。

私は2008年に東京バプテスト神学校本科に入学し、名古屋の自宅での受講で神学の学びが始まりました。その後ギリシャ語の試験的ライブ授業がスタートし、2010年にはライブ授業の環境も整えられて、神学を学ぶ喜びと楽しさ、又厳しさや難しさの日々でした。ライブ授業は、自宅に居ながら画像を通して共に学ぶ友や講師方と出会い、講義を受け、又発表もあり質問され、語り合うという豊かな時を共有して、独りの学びも主にある友と繋がり、大きな励みとなりました。特に神学校では色々な教派からの神学生や、又講師陣が現場の牧師なので、様々な環境の現場から語られる生の真実の言葉や証しは、深い学びへと導かれるものでした。そして専攻科もライブ受講しながら、時をみつけて上京し、教室の授業に出席して直接、先生や友とのface to faceの繋がりも深められ、沢山の学びと恵みの時を頂き、今も同労者として仲間に加えられ、何よりも力強い支えです。

本科入学時の学長からのメッセージが心に残っています。「神学する」ということ、これは神学校で学ぶ献身者だからではなく、教会の誰でもが、キリスト者はいつでもどこでも生活の中においても「神学する

こと」が大切と。神学を学び始め、神学の様々な知識も学びながらも、自らの信仰のなさを知らされ僅かな信仰も壊され、しかし聖書に聴き神に聴き祈り、神に仕え教会に仕えと、「神学する」ことは全てにおいて私の生涯歩む道となりました。

卒業後一年の待機と整えの時が与えられ、2014年4月、全くの新天地、関西・兵庫ブロックの姫路城西キリスト教会に主によって派遣されました。荷物や車と共に到着し、牧師館に入るとテーブルには花が美しく飾られており、温かく迎えられ主に感謝を献げました。

姫路城西教会は神戸教会を母教会として53年の歴史を歩み、私の赴任時は高齢者教会員6人で礼拝が守られていました。今年改築された世界遺産の姫路城西方の旧住宅街奥にひっそりとたてられてきましたが、「地の塩・世の光」の地域に開かれた教会として主を証しできるように



と、毎朝の早天祈祷会、主日礼拝前の毎週のCS、水曜聖書の学びと祈り会、女性会例会の学び、地方連合・連盟の集まりに積極的参加、地域教会との交わり等々のバプテストでは当たり前のことを、新しくスタートしています。教会で共に祈り賛美し、主のみ言葉と交わりと恵みの豊かさを通して主を証しして行きたいと、教会の願いとなりました。

4月末にはオープンチャーチ&ミニバザーに沢山の地域の方が訪れて、共に賛美歌を歌い、共に喜び、良き交わりの時が与えられました。

憐れみの主の導きと恵みの中で、今では転入者、九州からの転勤ご夫妻、新来者が加えられ毎週12~13名で主日礼拝を献げています。これからも主のみ心を共に祈り聴きながら、この地に主のご計画のなされることを信じ、期待していききたいと思います。

私が東京バプテスト神学校（以下「東バプ」）に入学させていただいたのは会社を退職し年金生活に入ってからのため、入学から5年目となる現在の私の年齢は67歳となります。

入学後の生活を振り返ると早かったとの思いと多くのことを学ばせていただいたとの満足感とがあります。

東バプでは、進級のための試験は特に無いので出席日数を満たし、求められるレポートを提出していれば

単位を取得することができます。しかし学生は年齢こそ様々であるものの皆献身の思いと召命感をもって入学していますので真剣に学んでいます。

東バプは、働きながら学ぶことのできる夜間（ライブや通信で遠隔地からも受講可能）の神学校ですので宣教人材の養成機関として大変貴重な存在だと思います。現に他の教派からも学びに来ております。

入学者の数が確保され増えることは神学校を維持成立させるために欠

かせない大きな要素です。バプテストは、万人祭司との信仰理解のもとに民主的教会運営を行っており、このためには信徒力の向上が欠かせません。献身と召命の思いをもって担う教会での働きは様々あると思います。牧師を目指す人に限らず聴講制度もありますのでさらに多くの方が東バプに学びに来られることをお勧めいたします。

聴講生の証

東京バプテスト神学校専攻科2年次
日本バプテスト東京第一教会 山本弘夫

BOOK review

ブックレビュー

医者と薬がなくても うつと引きこもりから生還できる理由

渡辺 聡 著

ギリシャ語担当講師 渡辺 聡先生の著書『医者と薬がなくてもうつと引きこもりから生還できる理由』がこの度（株）ヨベルから出版されました。定価（本体）1000円でポケット版、とても読みやすい本です。是非お読みください。

本書は、東京バプテスト教会のメンバー達の信仰の証しを綴る『東京バプテスト教会のダイナミズム』の第3弾である。今回は、メンバー達の中でうつを煩った人たちの体験談を集めている。心の病については精

神医学や心理学などの専門家以外は口を出すものではないという風潮があるなかで、聖書の福音に根ざした回復の道があるのだという大胆な提案がなされている。「医者と薬がなくても」などと挑発的なタイトルがついている手前、精神医学と世俗的カウンセリングに対する批判が展開される3章と4章は、脚注付きで論理武装されておりアカデミック風だ。しかし、本書の読みどころは、1章、2章、5章、6章、7章の各章に見られる5つの具体的な事例である。

うつを発症しクリニックで薬を処方されても、効果がないばかりか副作用で何年も苦しんだ経験を持つメンバー達が、どのようにして教会につながり、そこで癒されていったのが詳細に記録されている。社会学者でもある著者は、東京バプテスト教会のメンバー達の中に今日もピューリタニズムの精神が息づいていることを発見する。マックス・ウェーバーによれば、ピューリタニズムの形骸化が合理的な近代社会を生み出した。非人間化した社会システムの中で、もがき心を病んだ人々が、再びいのちを得るための鍵は、かつてピューリタン達が経験していた神の恵みに対する素朴な喜びの応答を再発見することなのではないかというのである。